

令和 5年 8月 24日
10時 10分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 20 番 氏名 西 田 清 久

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 定住促進と地域力の向上について

- ① 急激に人口減少が進む中、地域や産業分野において人材不足、マンパワー不足が目立っている。地域の中で人材を発掘、育成、活用していくことは基本だが、地域外から優秀な人材を呼び込むことも極めて重要である。浜田市では「地域おこし協力隊」制度を積極的に活用されているが、今後の制度活用について、ニーズによってはさらに増員されるのか、一定のところで制限もあるのか所見を問う。
- ② 学校が夏休みになると、浜田広域圏子ども交流事業実行委員会の主催で「子ども交流事業」行われてきたが、今年度が最後となった。江津や浜田の子どもたちが一緒になって様々なふるさと体験をし、その過程で人間力も培われる素晴らしい事業だと思うが、これまでの評価について問う。
- ③ 協働のまちづくりを推進している浜田市にとって、地域と市の職員との係わりは、新たな施策、事業の道すじやヒントも得られ、職員が地域活動に積極的に参画することは、活動情報に加え、住民の思いも共有できる。すでに多くの職員が地域に飛び出して活動しているが、その評価について問う。

2 行財政改革について

- (1) 持続可能な財務体質への転換におけるスクラップ・フォー・ビルドの考え方について
- ① 令和3年度から自治区制度に変わる新たなまちづくりがスタートし、公民館のまちづくりセンター化により、まちづくりの拠点機能が新たに加わったことに伴う事業費を捻出するため各部裁量予算の段階的縮減が図られている。(3年間で8580万円)
新たな事業を行えば、事業費を捻出するために各部の予算を縮減しなければならないのか考え方を問う。

発言No. 6

受付No. 5

令和 5 年 8 月 23 日

9 時 36 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 18 番

氏名 佐々木 豊治

答弁を求める者

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 奨学金返還支援制度の取組について

「日本学生支援機構」によると、現在、大学生の2人に1人、年間128万人の学生が、「奨学金」を利用するまでに制度が充実してきました。

しかし、卒業後、よく聞くのが、「奨学金の返済が苦しい。負担が重い」という声です。

2019 年度末の返還延滞者数は、32万7000人で、延滞債権は約5400億円にのぼります。延滞の主な理由は、家計の収入減や支出増で、延滞が長引く背景には、本人の低所得や延滞額の増加が指摘されています。

こうした利用者の負担軽減に向け、返還を「肩代わり」する支援制度が、2015 年から実施されています。「一定期間定住し、就職する」等の条件を満たせば、対象者の奨学金の返済を、自治体が支援する制度で、2022 年6月現在で全国615市町村が導入しています。

元々、自治体と地元企業などが「基金」をつくることを条件に、国が自治体の負担額の2分の1を「特別交付税」で、支援する枠組みで、スタートしましたが、2020 年6月に、制度が拡充され、市町村については、基金の設

置が不要になり、国が支援する範囲も、負担額の2分の1から全額（上限あり）まで拡大されました。

①奨学金返還に苦しんでいる若者の負担を軽減すると共に、地方創生の観点から、若者の地方定着を促す「本制度」を、浜田市でも、実施することが必要であると考えます。また、「若者支援ファンド事業」の一環としても取組むべきと思いますが所見を伺います。

2 地方創生臨時交付金を活用した市民生活支援について

(1) 物価高騰などによる市民への支援策について

経済産業省が8月16日発表したレギュラーガソリンの小売価格は全国平均で1リットル当たり181円90銭と、13週連続の上昇で、2008年8月以来15年振りの高値を更新したとの報道がありました。

今後、過去最高値も視野に入ってきたとのことで、市民生活に大きな負担となっております。

加えて、生活に欠かせない様々な食品などの物価高騰も続いており、市民生活に多大な影響を及ぼしております。

国のガソリンの激変緩和措置、電気・ガスの値引きなどの負担軽減措置も9月には終了することとなっており、引き続きさらなる負担軽減策が必要であります。

継続した国の対策に期待しつつ、市独自の引き続きの支援策も重要と考えます。

①今後の市としての市民への負担軽減策について所見を伺います。

(2) 水道料金や学校給食費の負担軽減の取組について

①改めて、国の交付金を活用し、水道料金の減免や免除について実施すべきと思いますが、所見を伺います。

②国の交付金を活用し、学校給食費の免除に取り組むべきと思いますが所見を伺います。

3 選挙投票支援の取組について

選挙投票支援については浜田市が「移動期日前投票所」の取組で先進的に取組んでおられ、少ない経費で一定の効果も出ていると思います。

しかし、移動期日前投票所の車が出向く地域は限られており、高齢化と共に投票率は低下しつつあると思います。

①近年の投票率の推移について伺います。

②投票しやすい環境整備としてタクシーを活用した取組事例もあります。

愛媛県東温市では平成30年から統廃合された3か所の投票所の地域住民を対象に無料のタクシー送迎を始められ、今では全市に広げておられます。

となりの西予市でも期日前投票所まで運転が困難か免許を持っていない人などを対象にタクシーで送迎する事業を始められました。

いずれも地元のタクシーを借り上げての取組のようですが、一定の成果がでているようであります。

選挙投票支援として、タクシーを活用した送迎について検討していくべきと思いますが所見を伺います。

発言No. 7

受付No. 14

令和 5 年 8 月 24 日
10 時 15 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 9 番 氏名 柳 楽 真智子

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 図書館の活用について

(1) 学校図書館の活用について

- ① 公立義務教育学校の学校図書館に整備すべき蔵書冊数(学校図書館図書標準)の達成状況を伺います。
- ② 学校図書館の図書の廃棄基準が定められているのか、あわせて更新の状況について伺います。
- ③ 学校図書館への新聞配備の状況を伺います。
- ④ 学校図書館司書の配置については令和2年度において100%の配置となっていました
が、現状も変わらないのか伺います。

(2) 子どもの読書活動の推進について

- ① GIGA スクール構想により1人1台端末の配備が行われ、その活用が進んでいます。
読書活動や調べ学習の取組における、図書の活用とデジタル活用の考え方について伺います。

(3) まちづくりセンターの図書室の活用について

- ① 各まちづくりセンターへ図書室や読書スペースが設けられています。第3次子ども
読書活動推進計画の中で、まちづくりセンターにおける読書活動の推進が謳われており
ますが、読書環境の整備や啓発活動がどのように行われているか伺います。
- ② まちづくりセンターの図書の廃棄・更新の状況を伺います。

発言No. 8

受付No. 10

令和 5 年 8 月 24 日
9 時 30 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 7 番 氏名 村武 まゆみ

答弁を求める者
(○をつける)

市長 ○教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 子どもの心と命を守る取組について

(1) 要保護児童について

- ① R3 年 9 月議会で児童虐待について質問をした。R2 年度では浜田市が受けた児童相談件数が 50 件あり、そのうち児童虐待相談が 27 件であった。その後の児童相談、児童虐待相談などの状況について伺う。
- ② 相談窓口や専門的な支援の他に、地域の支援活動や協力などが重要であると考えているが浜田市における状況について伺う。

(2) 教育について

- ① 子ども達自ら SOS を出すことも大変重要である。はまだ CAP に協力をいただき、SOS の出し方に関する教育をしていたが、現在の実施について伺う。
- ② 性教育や赤ちゃんとのふれあい授業など命の大切さを学ぶ授業の現状について伺う。

2. 学校生活について

(1) 小中学校のエアコン設置について

- ① 特別教室のエアコン設置について現状を伺う。
- ② 令和 5 年度の教育方針の中に、特別教室のエアコン設置について盛り込まれていた。その後の検討の状況を伺う。

(2) 小学校の登下校の方法について

- ① 現在、登下校の方法は主に徒歩、遠方の児童生徒はスクールバス、路線バスとなっている。スクールバス、路線バスを利用する場合の基準について伺う。

令和 5 年 8 月 24 日
9 時 32 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 22 番 氏名 牛尾 昭

答弁を求めるもの 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、 ふるさと体験村について

(1) 各施設の運営状況について

4月28日に、数年の閉鎖期間を経て、ふるさと体験村がリニューアルオープンした。合併当初の賑わいには、およばないまでも、5月4日の春まつりでは、入口付近まで、車が渋滞した。弥栄支所長が先頭に立ち、お出迎えをされていたのが印象的であった。最盛期ほどではないが、テント村は、旧交を暖める人で一杯であった。ただ、メイン施設を閉じたままのイベント開催に一抹の寂しさを感じたのは、私だけであっただろうか。現在、オープンして3ヶ月を経過したが、各施設の運営状況を問う。

- ①バンガローの貸し出し状況を問う。
- ②古民家の貸し出し状況を問う。
- ③レストランの運営状況を問う。
- ④地元住民による体験型プログラムの稼働状況を問う。

(2) わかりやすい所在地と経路の案内について

- ①体験村の場所がわかりにくいという市民の声に対しての対策を問う。

(3) 森林環境税を財源とする新たな活性化策について

①政府は、森林環境税の見直しに入るようである。現行は、都市部に多く配分されているため、本来の目的にあわせて山間部への配分を手厚くするようである。年末の税制改正での実現を目指すとのことである。現在の体験村周辺を見るときに、森林に親しむような設備が無い。もっと、森林とともに、生活者が共存出来るような空間づくり、又は、来外者が森林体験が出来るような仕掛けが必要と思う。その財源確保のために、この森林環境税を検討してみてはと思うが見解を問う。

2、水産業振興について

（１）ポートセールスについて

①新年度以降の市長のポートセールスは、凄い活動範囲である。余程の目的意識がないとあそこまでは出来ないように思う。市長のポートセールスに対する市長マニフェストを問う。

（２）底引き網漁船対策について

①８月１５日、底引き網漁船４ヶ統が、全船出港した。台風の後で心配するむきもあったが、西へ走るので大丈夫だとの判断であった。全般的に、船員が若返り、家族連れの見送りが多かった。今年は新たに新船が加わり、水揚げ増が期待出来るが現状を問う。

（３）巻き網漁船対策について

①盆前は、外来の巻き網漁船が入港して、忙しそうであった。地元船１ヶ統が、地域のために頑張っているが、昨年度の水揚げ日数を問う。

②県外船の水揚げ日数を問う。

③地元船の今後の課題を問う。